

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	淀川区
学 校 名	新東三国小学校
学校長名	岩井 伸夫

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・新東三国小学校では、第6学年 46名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率は、全教科大阪市平均と全国平均を下回った。平均無回答率については、国語のみが全国平均を下回り、特に理科は全国平均を大きく上回った。

国語では、どの内容も大阪市平均と全国平均を下回った。特にわるかったのは、「C読むこと」で全国平均から6.4ポイント、大阪市平均から5.8ポイント下回った。

算数もどの領域についても、全国平均と大阪市平均を下回った。中でも「A数と計算」は3.3ポイント、「Dデータの活用」は4.8ポイント全国平均を下回った。

理科も、どの区分・領域についても全国平均と大阪市平均を下回った。特にB区分の「『生命』を柱とする領域」と「『地球』を柱とする領域」については全国平均だけでなく大阪市平均も大きく下回った。

児童質問紙では、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。」のついて全国平均と・大阪市平均を上回った。一方ICT機器の使用時間や勉強時間については、多い児童、少ない児童がともに全国平均と大阪市平均を上回っており、2極化が見られた。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

## 〔国語〕

どの内容についても課題が見られたが、特に「(2)情報の扱い方に関する事項」「C読むこと」に課題が見られる。児童質問紙から、読書量はある程度あるが、テストの結果から内容をきっちりと読み取れているかは分からない。そのため、読書の量だけでなく質も高めていく必要があると考えられる。また、読み取った内容をどのように解釈し、自分の考えを形成していくかも課題であると考えられる。

## 〔算数〕

算数では、特に「Dデータの活用」で課題が見られた。表やグラフなどから、データをどのような内容を読み取り、生かしていくかが課題である。また、基礎・基本についても、様々な場面で使えるよう、定着させることについて課題がある。

## 〔理科〕

理科は、特にB区分の生命や地球に関する領域に課題が見られる。これらの領域は本校の児童にとってあまり身近でないためだと考えられる。特に天体や地層などは、大きな空間であったり、長い時間かかったりするため、イメージをや考えをもちにくかったと考えられる。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」について肯定的な回答が全国平均と大阪市平均より上回ったのは、普段から教師や友達などからよいところを見つけてもらったり、自分の言動を認められ評価される経験からであると考えられる。

また、ICT機器について、使用や情報モラルなどの学習をしているため、ある程度節度をもってICT機器を使用することができているが、十分ではない。学習については、各家庭環境によるものもあるが、家庭学習の習慣を身に着けさせることに課題が見られる。

## 今後の取組(アクションプラン)

○国語と算数については、これまで以上に一人一人に応じたきめ細やかな支援を行い、基礎・基本が定着するようにする。それとともに、様々な場面で自在に使えるようにするために、覚えるだけでなく理解できるよう、話し合い活動などで多用な考えに気付き、納得し、考えを深めていけるような授業をめざす。

○理科については、体験的な活動を重視して、様々な自然事象に触れさせ、学習内容にイメージをもつことができるようにしていく必要がある。また、児童が興味・関心をもてるような授業校生を工夫していく必要がある。

○今年度、本校で進めている道徳科の授業研究で、話し合い活動の工夫を検討し、児童が「主体的・対話的で深い学び」を実現できるようにしていく。その中で、児童が道徳性を養い、節度をもって行動したり、頑張り抜く強い心をもったり、友達と信頼や友情を育んだりして、安心して充実した学校生活を送れるようにしていく。